

教 師 ノ ー ト

日付 2020年 3月22日

単元 ルカの福音書

テーマ 感謝

タイトル 十人の皮膚病のいやし

テキスト ルカ17:11-19

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

第一テサロニケ5:16-18

AG 日曜学校教案参照箇所

幼 1 題 4 課 14、小下 3 題 2 課 11、小上 3 題 5 課 8、中 2 題 3 課 12

□導入

今日のお話は、イエス様に重い皮膚病(らい病)を治してもらったので感謝した人のお話です。

□ポイント1 重い皮膚病の人たちがイエス様にお願いしました(1-2節)

ある日、イエス様はエルサレムに向かっていました。昔は今のようには電車や自動車もありません。自転車だってもちろんありません。ですから歩いて行きました。途中サムリヤとガリラヤの間のある村に入ろうとした時です。遠くの方でこちらを見ている人たちがいました。彼らは遠くの方から大きな声で、「イエス様、私たちがあわれんで下さい」と叫びました。この人たちは、「イエス様が病気の人を治した」と言うウワサを聞いていました。ですから、もしお願いすれば自分たちも助けて下さると思って、「イエス様、私たちがかわいそうに思って助けて下さい」と叫んだのです。彼らは一生懸命でした。

この人たちはイエス様のそばまで来ようとはしませんでした。遠い場所から離れて、助けて下さいと言っています。イエス様は、この人たちのことがすぐにわかりました。この人たちは重い皮膚病にかかっていたのでした。当時、重い皮膚病の人は、他の人にうつらないように、人から離れて町や村の門の外側に住まなければならなかったのです。又、道を歩く時は、健康な人たちが、間違っても自分たちに触れない様に、「私は重い皮膚病です」と大声を上げて歩かなければなりません。それも健康な人たちからは遠く離れていなければなりません。それだけではなく、この病気にかかると「汚れた者」と呼ばれたのでした。

この病気を治せるお医者さんはいませんでした。ですから、この病気にかかった人たちは、どこかでひとり、死ぬのを待っていなければならなかったのです。この皮膚病はとても恐ろしい病気でした。彼ら十人は遠く離れ必死になって「イエス様、私たちがかわいそうに思って助けて下さい」と言いました。

□ポイント2 重い皮膚病の人たちはイエス様に従いました(2-8節)

イエス様は彼らを見つめられました。そしてこのように言いました。「行って、あなたがたの体を祭司に見せなさい」。この病気は神様に呪われ、汚れた、特別の病気であると考えられていました。ですから病気が直ったかどうかを調べて、家族の所へ戻って、一緒に生活してもいい、と判断し認めるのは、神様に仕える祭司たちの仕事でした。イエス様は、すぐ、その場で病気を癒さずに、祭司たちの所へ行く途中に病気が癒される、と言われたのです。

しかし、祭司たちはここにはいません。祭司は遠いエルサレムの神殿にいたのでした。彼らは二、三日かけて、そこまで行かなければならませんでした。まだ病気は直っていません。エルサレムへ行っても、直っている保証はありませんでした。途中でいろんな人たちに会うことでしょう。そんなときには、イチイチ気を使って歩かなければなりません。夜になっても、彼らを泊めてくれる旅館なんてありませんでした。けれども彼らは、イエス様の言われたエルサレムに向かって歩き出しました。

□ポイント3 重い皮膚病はいやされました(9-12節)

十人の人たちは、エルサレムへ向かって歩いているうちに、気分が良くなってきました。体に力がついてきたこともわかりました。体中にあった、ひどいおできも治りました。のども良くなったので、大声で叫ぶことも出来ました。お互いの顔や体を見た時に、本当にビックリしました。十人の人は道を急いで行く間に、完全に病気が治ったのです。それはイエス様を信じて、言う通りに従ったからです。「イエス様って何て素晴らしい人だろう!神様、感謝します!ハレルヤ」とこの人たちは喜びの声をあげました。

その時、一人のサマリア人は病気が治ったので、他の九人のユダヤ人に、「すぐイエス様の所へ戻って、お礼を言おう」と言いました。ところが、九人の人たちは、「まずこの体を祭司たちに見せに行こう。そして、癒された事を認めてもらおう」。「それから、急いで、イエス様の所へ戻っても遅くない」、と言いました。すると、サマリア人は、「祭司に認めてもらうとか、そう言うことではなくて、それよりもまず、イエス様の所に帰って、お礼を言おう」、と言いました。病気が治ったことについて、十人の人たちが一人と九人に考え方が分かれてしまいました。九人の人たちは、イエス様にお礼をするよりも、祭司たちのところへ行くことを選びました。

サマリア人は仲間たちと別れて一人でイエス様にお礼を言うために戻って行きました。彼は、神様をほめたたえながら帰って行きました。帰りながらうれしくて、道を走ったり、立ち止まってジャンプしてみたり、又、両手を天に突き上げたりしました。また大きな声で、「ハレルヤ、アーメン」と叫んだり、歌ったりしたのです。この人は、イエス様の居る所に戻って来ました。そして地面にひれふして、「ありがとうございました。ありがとうございました。あなたのおかげで私の病気は治りました。お礼が言いたくて戻って来ました」と大声で言いました。イエス様はこの人を見て、やさしく、ニコニコしていました。でも少し悲しそうに、こう言いました。「治ったのは十人じゃなかったのかね?ほかの九人はどこにいますか?」それからこの人に、「立って行きなさい。あなたは私を信じたから治ったのです」と言いました。イエス様は、十人全部を愛していました。そしてその人たちがイエス様を信じたので、みんなを治してあげたのです。ところが帰って来て、イエス様に、「ありがとうございました」とお礼を言って、イエス様を喜ばせたのは、ひとりだけでした。

□結論 神様に感謝をささげたのは一人でした

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. 今日のお話しの十人は病気が治ってから出かけたのではなく、イエス様のお言葉を信じて従って行きました。すると、その行く途中で病気は直ったのです。みんなも、イエス様に教えられたけれど、まだ、従っていなかったことはないでしょうか。または、イエス様のお言葉に従っている途中ですが、もう従うことを、やめようかどうか迷ったりすることはないでしょうか。いまイエス様に従い続ける決心をしましょう
2. 皆さんはお祈りの中で叫ぶという経験があるでしょうか。今日の病気の人のように、本当に「この時だ」と思う時には、大きな声でイエス様にお祈りをしてみましょう。彼らの病気が治りたいと言う気持ちが「イエス様」と大きな声で叫ぶ行動になりました。みんなも自分の問題などで本当に苦しくて神様に助けをもらいたい時、お祈りの中で真剣に神様に叫び求めていきましょう。
3. 今日のお話を聞いて、みんなは、すぐに感謝をささげた人と、あとで感謝をささげようと思った人の、どっちの人になりたいと思いましたか?もちろん、すぐにイエス様に感謝をあらわした人ですよね。みんなの生活の中でイエス様がお祈りを聞いてくれたこと。イエス様が助けてくれたこと。いろいろあると思います。いまイエス様が自分にしてくれたことを思い出して感謝のお祈りをしましょう。